

高齢者用肺炎球菌ワクチンの予防接種を受ける方へ（説明書）

～よく読んでから予診票を記入しましょう～

1. 肺炎球菌について

肺炎球菌による肺炎は、成人の肺炎の25～40%を占め、特に高齢者で重症化しやすい状況があります。予防接種をすると、肺炎球菌による肺炎の重症化と死亡のリスクが軽減されます。

2. 高齢者用肺炎球菌ワクチンについて

現在使用されているワクチンは、肺炎球菌の約90種類以上ある血清型の中で、頻度の高い23種類の肺炎球菌を型別に培養し、殺菌後に抽出、精製した莢膜ポリサッカライド（多糖体）を混合したものです。

3. 予診票の記入について

予診票は予防接種を受けるにあたって、医師にご自分の健康状態を伝える大切な用紙です。内容をよく読み、治療中の病気や飲んでいる薬など、もれがないように記入しましょう。心配なことがある場合は医師に十分相談しましょう。予診票の下にあるご本人の署名は、医師の診察の結果を聞いてから記入します。

4. 高齢者用肺炎球菌ワクチン予防接種の副反応

海外及び自発報告では、打おったところの痛みや熱感・腫れ・赤みが出るが5%以上認められています。その他、筋肉痛・体のだるさ・違和感・寒気・頭痛・発熱が認められることもあります。

5. 他の予防接種との関係

- インフルエンザ等のワクチンを接種される際は、医師が特に必要と認めた場合は、同時接種ができます。
- 新型コロナワクチンの接種前及び接種後は、原則として13日以上の間隔が必要で同時接種はできません。（令和4年7月22日時点）

6. 予防接種後の注意

- 予防接種後30分間は急な副反応がおこることがあります。医師とすぐに連絡を取れるようにしましょう。（注射後24時間は体調に注意しましょう）
- 入浴は差し支えありません。注射した所を強くこすることはやめましょう。
- 接種当日はいつもの生活をしてかまいません。激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

定期の予防接種により重篤な健康被害が発生した時には、予防接種法により発生した健康被害の救済が行われます。給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、お住まいの市区町村の予防接種担当課へご相談ください。